

## 福沢諭吉の死生観

本会会員 小室正紀

### 1. 無宗教

#### 1) 士族の伝統

【資料①】『通俗国権論』第5章、明治11年

「今日に在て苟も有智有徳以て社会の实用をなすべき人物は、常に宗教を信ぜざるのみならず、そのこれを信ぜざること愈固ければ愈以て人品の貴きを表するの証となすべきに至れり。但し宗教不信なりといえども、単に不信の点に止まるのみにして、殊更に之を蔑視するにも非ず、また敵視するにも非ず、結局これを度外に放却して顧みざるのみ。宗教の外に逍遙してもよく幸福を全うするは、我日本の士人に固有する一種の気風にして……」

#### 2) 母親

【資料②】『福翁自伝』「幼少の時：兄弟問答」、明治32年

「宗教について、近所の老婦人たちのように普通の信心はないように見える。例えば家は真宗でありながら、説法も聞かず「私は寺に参詣して阿弥陀様を拝むことばかりは、可笑しくてキマリが悪くて出来ぬ」と常に私共に言いながら、毎月、米を袋に入れて寺に持って行って墓参りは欠かしたことはない(その袋は今でも大事に保存してある)。阿弥陀様は拝まぬが坊主には懇意が多い。檀那寺の和尚は勿論、また私が漢学塾に修行して、その塾中に諸国諸宗の書生坊主がいて、毎度私所に遊びに来れば、母は悦んでこれを取持って馳走でもするというような風で、コンナ所を見れば、ただ仏法が嫌いでもないようです。」

#### 3) 宗教の意義を認める

【資料③】「徳育余論」明治15年

(国が道徳を指導することは否定、道徳は庶民が信じる宗教にまかせる)

「古来下流の人民に仏法を信ずる者多く、民間の道徳は全く仏法より生じたるものなれば、この旧習慣を維持して毫も之を妨ることなく、その教導のまゝに放任したらば、民間の徳育に足らざるものなかる可し」

「広く下流の人民を教導して徳心の公議輿論を起し、その反射の大勢力を以て上流を警しむるものは唯宗教あるのみ」

### 2. 理系人間

#### 1) 物理学志向

【資料④】演説「人生の樂事」明治26年

「今を去ること四十年、年齢二十の頃、始めて洋学に志し、その入門は物理学にして、之を悦ぶこと甚だしく、何か一科の専門に入りて為すことあらんと熱心は万々なれども、時勢の許さざる所にして、家に資力もなく、朝暮衣食の計に忙くして心を専一にすること能はざるのみか、開国以来の世変を見れば自から黙視す可きにも非ず、色々の著述などして時を費やしたることも多し。左れども物理学の一事は到底心頭を去らずして、

之を思へばいよいよ面白く、独り心に諱らく、造化に秘密、誠に秘密なるが如くなれども、化翁必ずしも之を秘するに非ず、人の之を探求せざるが故なり。」

## 2) 精神の作用も科学的に解明されるはず

【資料⑥】「三宅豹三アテ書簡」明治30年

「自分は此世にまだ用のある身なり、唯今死んでは困るゆゑ決して死なずと一心決定して、平気に剛情に身構すること最第一の療法なるべし。」

「身体と精神との関係甚だ密」「今日の医学にては未だ其正確なる所を示すを得ず」

「数十百年後医学進歩の暁は」解明されるかもしれない。

## 3. 人生蛆虫論

### 1) 広大な生命の連鎖の中のわずかな一瞬（地球生命 40 億年の流れ）

【資料⑥】『福翁百話』七「人間の安心」明治29年

「宇宙無辺の考をもつて独り自から観ずれば、日月も小なり地球も微なり。況して人間のごとき、無智無力、見る影もなき蛆虫同様の小動物にして、石火電光の瞬間、偶然この世に呼吸眠食し、喜怒哀楽の一夢中、忽ち消えて痕なきのみ」→諦観

【資料⑦】「服部鐘アテ書簡」明治30年

「人間の死生は天の命ずる所にして、如何ともす可らず。私は宗教の信心は御座無く候らえども、諸行無常の理は、独り自から観念して死を恐れ申さず。」

【資料⑧】「中川横太郎アテ書簡」明治23年

「夫れ是れ申ス中ニ、寿命尽れば死ぬばかりの事に御座候。」

### 2) 諦観と現世

▷有り得る対応：現世・この世の空しさ→死後の永遠の生命→信仰

▷福沢の対応：一瞬という貴重な時なのだから、その時を精一杯生きよう

負けると分かっている試合だが最後まで奮戦することで納得する

【資料⑨】『福翁百話』七「人間の安心」明治29年

「既に世界に生れ出たる上は蛆虫ながらも相応の覚悟なきを得ず。即ちその覚悟とは何ぞや。人生本来 戯 と知りながら、この一場の戯を戯とせずして 恰 も真面目に勤め、貧苦を去て富樂に志し、同類の邪魔せずして自から安樂を求め、五十、七十の寿命も永きものと思つて、父母に事え夫婦相親しみ、子孫の計を為し、また戸外の公益を謀り、生涯一点の過失なからんことを心掛るこそ蛆虫の本分なれ。」

〔諦観⇔「真面目に勤め」る人生〕＝「人間の安心法」

## 4. 結びにかえて

▷精一杯生きること＝死を受け入れること

▷精一杯生きるには、まず健康

▷福沢論吉の健康法：散歩・米搗き・居合い、食事；その重要度

【資料⑩】「清岡邦之助アテ書簡」明治27年

「過日出京来訪の節、老生は居合の運動最中、失礼致し候。是れは老生の養生ゆゑ、勅命にても止められ申さず、宜しく御断り願ひ奉り候」